

# 夕暮れ症候群に対する DVD 鑑賞の効果

- 認知症を有する4名の症例報告を通して -

○若松 厚志、谷藤 晴美、佐藤 暁美、緒方 智子、吉田 順子、岡田 由美子、柳田 勝

大阪 渡辺第二病院

## I. 【はじめに】

夕暮れ症候群とは、認知症性高齢者において午後から日没頃になると徘徊・興奮・攻撃・叫び声・介護に抵抗などの不穏な行動や、壁などをとんとんとたく、シーツをつかむ、身体を引っかくなどの奇妙な行動が見られる状態である。

今回我々は、老人性認知症治療病棟に入院している患者さんに対して、1ヶ月にわたって夕方に昭和時代のテレビで放映されたDVDを鑑賞してもらい（以下DVD療法）、夕暮れ症候群に対する効果を調査したので、若干の考察を加えて報告する。

## II. 【対象】

老人性認知症治療病棟：48名

男性：23名、女性25名。年齢：58～99歳

[症例Aさん] 老年期認知症、75歳、女性、HDS-R：14点、入院期間8ヶ月、帰宅要求が強く、徘徊が著明で不穏傾向がある。

[症例Bさん] アルコール性認知症、58歳、男性、HDS-R：16点、入院期間8ヶ月、帰宅要求が強く、徘徊が著明で不穏傾向がある。

[症例Cさん] 脳血管性認知症、59歳、男性、HDS-R：9点、入院期間1年、終日臥床がちである。

[症例Dさん] アルコール性認知症、63歳、HDS-R：8点、入院期間1年3ヶ月、終日臥床勝ちである。

## III. 【方法】

①平成19年1月4日～1月31日までの1ヶ月間

②夕方16時から18時までテレビのあるデールームに集合していただき、DVDを鑑賞していただく。

③DVDの題材：水戸黄門、てなもんや三度笠、

④午後16時から18時まで、患者観察表を作成し、その様子を記載した。

## IV. 【倫理的配慮】

4名のご家族には、研究発表の主旨を説明し、同意を得た。全体の計画は、当院倫理委員会の承諾を得ている。

## V. 【結果】

患者数48名中40名を16時にデールームに誘導することができ、その後にDVD療法を行った。開始時は40名中34名が着席し6名が徘徊をしていた。DVD療法を続けているうちに、帰宅要求や不穏となる回数が減少し、不穏時に抗精神病薬の頓用頻度が病棟全体で1ヶ月24回から15回に減少した。これらのことからDVD鑑賞は、夕暮れ症候群のケアに効果があるものと考えられた。

## VI. 【考察】

DVD療法により不穏が軽減し抗精神病薬の頓用回数が月に4回と減少し、表情も見た目に穏やかになった。

今回我々は、夕方に、DVDの鑑賞を勧めることで、夕暮れ症候群の症状の緩和を認めた。また、DVDの内容は、回想を促進する目的であらかじめ、過去にみたであろうテレビ番組を選んだところ、効果があった。他の医療機関では、日本の昔話や戦争当時の紙芝居の鑑賞に効果があったと報告されている。

以上のように、DVDの鑑賞によって薬物療法（抗精神病薬）の使用頻度も減少したことから、他の病棟でも広めていきたい。